

特別の教科 道徳

評価について

はじめに

平成29年3月31日、文部科学省より学習指導要領の全部を改訂する告示が公示されましたが、道徳においては、それに先立つ平成27年3月27日に、学習指導要領の一部を改訂する告示が公示され、小学校は平成30年度から、中学校は平成31年度から、道徳の時間は「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」という。）として、新たに位置付けられます。

一部改正後の学習指導要領においては、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（中学校「広い視野から」を追記）多面的・多角的に考え、自己の生き方（中学校「人間としての生き方」）についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことが道徳科の目標として掲げられています。また、その目標の実現に向けて、言語活動、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習の充実等の指導方法の一層の工夫・改善に加え、答えが一つではない課題を一人一人の児童生徒が道徳的な問題と捉え向き合う「考え、議論する道徳」への転換が求められます。

さらに、平成28年7月には、数値による評価は行わず、児童生徒が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価を目指す観点から、道徳科の評価のあり方についての文部科学省の基本的な考え方が通知されました。

こうした状況の下、本冊子は道徳科の評価を行うにあたっての基本的な考え方や配慮事項等とともに、研究指定校を中心に平成29年度中に各校で試行的に実践された評価の事例をまとめたものです。各校におかれては、道徳科の評価のあり方を検討し、共通理解する際に活用いただきますようお願いいたします。

なお、申し上げるまでもありませんが、本冊子はあくまでも参考資料です。道徳科の評価は、一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、分析するものであることに十分留意ください。

目次

・ 評価の基本的な考え方	1
・ 評価のための具体的な工夫	2
・ 具体的な評価の記述について	3
・ 特に留意すべきことは？	4
・ 授業に対する評価と改善	5
・ 発言や記述が苦手な児童生徒や発達障害等のある児童生徒に対する配慮は？	6
・ 児童生徒や保護者に届ける！	7
・ 道徳科における評価手順フローチャート	8
・ 評価事例（小学校低学年）	10
・ 評価事例（小学校中学年）	11
・ 評価事例（小学校高学年）	12
・ 評価事例（中学校）	13
・ 児童生徒アンケートシート様式例	14

評価の基本的な考え方

道徳科における評価とは？

- ▶ 道徳科の評価は、教師が児童生徒一人一人の人間的・道徳的な成長を温かく見守り、共感的な理解に基づいて、よりよく生きていこうとする努力を認め、勇気づける働きを持つものです。同時に成長の振り返りや道徳性の育みを支援するものであり、児童生徒との温かな人格的なふれあいに基づくものであることが重要です。
- ▶ 児童生徒には自らの道徳性の成長を振り返る機会となり、教師にとっては指導計画や指導方法を改善する（授業改善の）手掛かりとなります。そのためにも、常に指導に生かされ、児童生徒の成長につながるものであることが重要です。
- ▶ こうした評価としていくためには、下記「評価の視点」を意図しながら、学期や学年にわたって児童生徒がどれだけ成長したかという視点から、児童生徒一人一人のよい点や可能性等を多様な側面で具体的に把握することが大切です。
- ▶ また、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童生徒が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価（個人内評価）になるよう工夫することが必要です。

評価の視点は？

- ▶ 道徳科の評価は、児童生徒の道徳性そのものを対象とするものではありません。道徳性を養う学習活動に着目して、その学習状況や児童生徒の成長の様子を適切に把握し評価するものです。
- ▶ つまり、道徳科の授業においては、学習指導の過程で期待する児童生徒の学習状況を具体的な姿で表したものと学習の成果等が評価の対象となります。（P2「評価のための具体的な工夫」を参照。）

評価の視点

ねらいとする道徳的価値についての理解を基に

- ① 自己を見つめることができたか
- ② 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えることができたか
- ③ 自己（人間として）の生き方について考えを深めることができたか

評価のための具体的な工夫

年間や学期という一定の時間のまとまりの中で評価材料を蓄積する

- ▶ 評価記述のすり合わせだけでなく、評価する過程を重視し、毎時間どのような評価材料を蓄積していくか、道徳教育推進教師を中心に学校でよく議論し、全教師で共通理解することが大切です。
- ▶ 評価材料は、道徳ノートやワークシート、感想文（作文）、レポート、スピーチ、プレゼンテーション等に加え、毎時間の授業観察や児童生徒の発言、エピソード等の記録などが考えられます。長いスパンで見取るため、それらを保存しておくなどの工夫をします。また、校務支援システム「いいとこみつけ」機能も積極的に活用します。
- ▶ 児童生徒による自己評価や相互評価を活用することも、児童生徒の主体的に学ぶ意欲を高め、学習のあり方を改善していくうえで役立ちます。

組織的・計画的な取組で評価に対する共通理解を深める

- ▶ 道徳科の評価の妥当性、信頼性等を担保するため、学校として組織的・計画的に行うことが重要です。
- ▶ 道徳教育推進教師のリーダーシップの下、学年ごとに評価資料や評価方法を明確にする、評価結果や評価視点等を教師間で検討する、評価事例を蓄積し共有することなどが考えられます。
- ▶ また、校長や教頭等の参加、他の教師と協力的に授業を行うといった取組も有効です。児童生徒の変容を複数の目で見取り、評価に対する共通認識を深める機会となるものであり、評価を組織的に進めるための方法としての効果が期待できます。

特に顕著とみられる具体的な学習状況を記述する

- ▶ より具体的に児童生徒や保護者に伝わるよう、授業中の発言や会話、道徳ノートやワークシート等から、特に顕著と認められる具体的な状況を、わかりやすく記述します。
- ▶ その際、「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか^{*1}」、「一面的な見方から、多面的・多角的な見方へと発展しているか^{*2}」という点を、見取りと分析の視点として特に重視します。

- ※ 1 ・ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている。
 - ・ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動を考え見直している。
 - ・ 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしている など
- ※ 2 ・ 自分と違う意見や感じ方、考え方を理解しようとしている。
 - ・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
 - ・ 複数の道徳的価値の対立する場面で取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている など

具体的な評価の記述について

- ▶ 評価の記述にあたっては、一つの授業の報告や、授業のねらい（内容項目）の裏返しだけの表現になってはならないことに十分に留意してください。また、児童生徒が書いたものの紹介に終わらず、そこから読み取れるよい点や成長した姿についての記述が必要です。
- ▶ 評価には、児童生徒が自分の考え、生き方等について気付いたり、深められたりしたこと、道徳科の授業で見られた姿勢や意欲等が記述されていることが必要です。そのため、記述の一般的な構成としては、以下の例が考えられます。

★前半

道徳科の授業でどのような学習活動の様子が見られたか（学習状況の様子）

★後半

発言、記述、パフォーマンス等、顕著な姿が見られた教材の学習でどのような思いや考えを持てたのか／深められたのか（成長の様子）

★前半と後半を合わせて、おおよそ100～150字を目途に簡潔に表現します。

- ▶ なお、上記の例に捉われすぎて、児童生徒の様子や姿がわかりにくい表現となっては本末転倒です。児童生徒や保護者の実態に応じて、柔軟に工夫します。
- ▶ 例えば、学習状況の様子と成長の様子がしっかり記述され、児童生徒や保護者に伝わる内容であれば、必ずしも上記の例に捉われる必要はありません。（ただし、通知票や指導要録の記述欄の関係から、字数は100～150字がおおよその目途となります。）
- ▶ 「児童生徒や保護者に伝わる評価」であることが何より大切です。

MEMO

特に留意すべきことは？

評価基準に基づく評価は行わない

- ▶ 道徳科の評価は、「児童生徒の道徳性そのものではなく、道徳性を養う学習活動に着目」します。このため、「道徳的価値を理解したか」などの評価基準の設定はふさわしくありません。
- ▶ 道徳科の目標「道徳的価値についての理解を基に」の「基に」は、「理解し」ではありません。このため、知識などを理解・定着させることを目的の一つとして、評価基準に基づいて評価していく他の教科とは異なります。

内容項目の記述や観点別評価を通じての見取りは妥当ではない

- ▶ 道徳的価値である内容項目についての理解の度合いをはかることも、評価としてはふさわしくありません。そのため、実際の評価においても、「特定の内容項目について理解できた」など、理解の度合いを記述することは避けるべきです。
- ▶ また、道徳的諸様相である「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」は、それぞれを明確に区分できません。そのため、これらの諸様相を分節し、学習状況を分析的に捉える観点別評価を通じての見取りは道徳科の評価としては妥当ではありません。

道徳的行為として表れた姿そのものを記述するものではない

- ▶ 道徳科の評価は、「道徳性を養う学習活動に着目」して、その学習状況や児童生徒の成長の様子を評価するものであり、道徳的行為として表れた姿を評価するものではありません。
- ▶ そのため、児童生徒に道徳的行為として表れた姿については、これまで同様に、必要に応じて、通知票の所見（連絡）欄、指導要録の行動の記録や総合所見及び指導上参考となる諸事項の欄に記述します。

大括りなまとまりを踏まえる

- ▶ 道徳科の評価は、大括りなまとまりを踏まえ、個人内評価として記述式で行うこととなります。この「大括り」とは、個々の内容項目ごとの評価ではなく、年間や学期という一定の時間のまとまりの中で、学習状況や道徳性にかかる成長の様子を評価することを意味しています。

授業に対する評価と改善

- ▶ 児童生徒の学習状況の把握を基に授業に対する評価と改善を行う上で、学習指導の過程や指導方法を振り返ることが重要です。教師自らがその指導を評価し、その評価を授業改善に生かすことが、道徳性を養う指導の改善につながります。
- ▶ そのため、明確な意図を持って指導計画を立て、授業の中で予想される児童生徒の学習状況を想定し、授業の振り返りの視点を立てることが必要です。
- ▶ 授業の振り返りの視点としては、以下のようなものが考えられます。

ア 学習指導の過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値についての理解を基に自己を見つめ、自己の生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに則した適切なものとなっていたか。

イ 発問は、「児童生徒が多面的・多角的に考えることができる問い」、「道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問い」など、指導の意図に基づいて的確になされていたか。

ウ 児童生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童生徒の発言などの反応を適切に指導に生かしていたか。

エ 教材や教具の活用は、児童生徒が自分自身との関わりで、物事を多面的・多角的に考えるうえで、適切であったか。

オ 指導方法は、ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるうえで、児童生徒の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。

カ 特に配慮を要する児童生徒に適切に対応していたか。

- ▶ 児童生徒の道徳性を養い得る質の高い授業を創造するためには、授業改善に資する学習指導の過程や指導方法の改善に役立つ多面的・多角的な評価を心掛ける必要があります。
- ▶ 道徳科は、児童生徒の人格そのものに働きかけるものであるため、その評価は安易なものであってはなりません。児童生徒のよい点や成長の様子を積極的に捉え、それらを学級経営や日常の指導、個別指導に生かしていくことも重要です。

発言や記述が苦手な児童生徒や発達障害等のある児童生徒に対する配慮は？

- ▶ 発言が多くない児童生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒に対しては、教師や他の児童生徒の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしていたりしている姿に着目するなど、発言や記述ではない形で表れた児童生徒の姿に着目することが重要です。
- ▶ また、発達障害等のある児童生徒に対する指導や評価には、それぞれの学習指導の過程で考えられる「困難さの状態」をしっかりと把握した上で必要な配慮を行うことが重要です。
- ▶ 例えば、他者との社会的関係の形成に困難がある児童生徒の場合であれば、他者の心情を理解するために役割を交代して動作化したり、また、ルールの明文化や、ICT機器を活用したりするなど、学習指導の過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が求められます。
- ▶ 評価を行うにあたっては、配慮を伴った指導を行った結果として、「相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めているか」、「多面的・多角的な見方へ発展させていたり、道徳的価値を自分のこととして捉えたりしているか」といったことを丁寧に見取ります。
- ▶ 道徳科の評価は、他の児童生徒との比較による評価や目標への到達度をはかる評価ではなく、一人一人の児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うものです。このような道徳科の評価本来のあり方を追究していくことが、一人一人の学習上の困難さに応じた評価につながります。
- ▶ なお、こうした考え方は、海外から帰国した児童生徒、外国籍や外国にルーツのある児童生徒など、一人一人の児童生徒の状況に応じた指導と評価を行う上でも重要です。それぞれの児童生徒の置かれている状況に配慮した指導を行いつつ、その結果として、児童生徒が多面的・多角的な見方を深めていたり、道徳的価値を自分のこととして捉えたりしているかといったことを丁寧に見取ることが求められます。

MEMO

児童生徒や保護者に届ける！

指導要録，通知票は学習活動のみに着目

- ▶ 道徳科の評価は，道徳的行為として表れた姿を評価するものではありません。そのため，指導要録，通知票ともに，道徳性を養う学習活動のみに着目した評価の記述を行うことが必要です。
- ▶ なお，指導要録（指導の過程や結果を外部に証明するための原簿）と通知票（教科の成績や日常生活の記録等をまとめ，児童生徒や保護者に通知する書類）は，性質が異なるため，評価内容の同一性は担保しつつ，通知票は児童生徒や保護者に伝わりやすい記述とするなどの工夫が肝心です。

個人面談や懇談等で保護者と共有

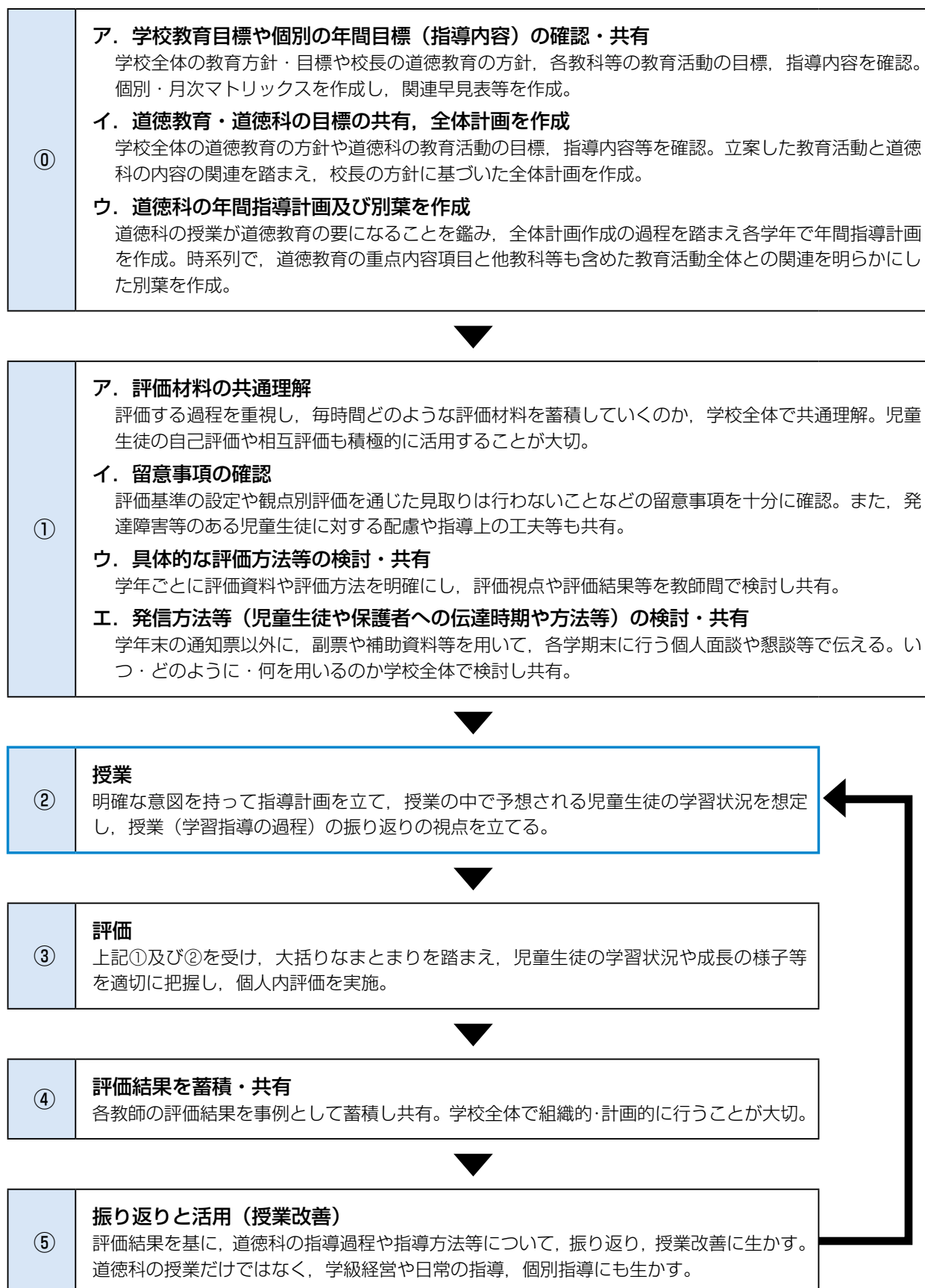
- ▶ 通知票の記述は，学年末のみとなるため，各学期末に行う個人面談や懇談等では，副票や補助資料等を用いて，道徳科の授業での学習状況とともに，教育活動全体を通して，児童生徒に表れた姿を捉え，その様子について補足的な記述を行うことも大切です。
- ▶ 副票や補助資料等を作成しない場合も，児童生徒の学びの足跡がわかる資料（道徳ノートやワークシート，感想文等）を用いて，児童生徒に表れた姿を積極的に保護者と共有します。

「こんなことまで見てくれるんだ」が次の成長につながる

- ▶ 道徳科の評価は，児童生徒の成長の振り返りや道徳性の育みを支援するものであり，児童生徒との温かな人格的なふれあいに基づくものであることが重要です。「こんなことまで見てくれるんだ」といった評価が，児童生徒の次の成長につながります。

※なお，評価にあたっては，「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成 29 年 6 月・7 月），およびパンフレット「考え，議論する道徳を目指して」（平成 29 年 3 月）等も十分に参照してください。

道徳科における評価手順フローチャート



① 学校全体での共通理解

1 評価の基本的な考え方

① 評価の対象

道徳性そのものを対象とするのではなく、道徳科での学習活動に着目して、その学習状況や児童生徒の成長の様子を適切に把握し評価する。

② 評価の視点

ねらいとする道徳的価値についての理解を基に

ア 自己を見つめることができたか

イ 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えることができたか

ウ 自己（人間として）の生き方について考えを深めることができたか

③ 留意点

- ・評価基準に基づく評価は行わない。 ・内容項目ごとや観点別評価を通じての見取りは妥当ではない。
- ・道徳的行為として表れた姿そのものを記述するものではない。 ・大括りなまとまりを踏まえる。

2 評価の材料

- ・道徳ノートやワークシート、感想文（作文）、レポート、スピーチ、プレゼンテーション等に加え、毎時間の授業観察や児童生徒の発言、エピソード等の記録など。
- ・毎時間どのような評価材料を蓄積するかが重要（評価する過程の重視）。

3 児童生徒や保護者への伝達時期や方法

- ・学年末の通知票以外に、副票や補助資料等を用いて、各学期末に行う個人面談や懇談等で伝える。いつ・どのように・何をを用いるのか学校全体で検討し共有。
- ・副票や補助資料以外にも、児童生徒の学びの足跡がわかる資料（道徳ノートやワークシート、感想文等）を用いて、児童生徒に表れた姿を積極的に保護者と共有。

② 授 業

- ・明確な意図を持って指導計画を立て、授業の中で予想される児童生徒の学習状況を想定し、授業（学習指導の過程）の振り返りの視点を立てる。
- ア 学習指導の過程は、適切に構成されていたか。指導の手立てはねらいに則した適切なものとなっていたか。
- イ 発問は、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ウ 児童生徒の発言等の反応を適切に指導に生かしていたか。
- エ 教材や教具の活用は適切であったか。
- オ 指導方法は、児童生徒の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- カ 特に配慮を要する児童生徒に適切に対応していたか。

⑤ 振り返りと活用

- ・評価結果を基に、学習指導の過程や指導方法等について、振り返り、授業改善に生かす。
- ・道徳科の授業だけではなく、学級経営や日常の指導、個別指導にも生かす。

③ 評 価

- ・学校全体での共通理解を基に、道徳科での学習活動に着目して、その学習状況や児童生徒の成長の様子を適切に把握する。
- ・児童生徒が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価（個人内評価）を心掛ける。
- ・児童生徒が自分の考え、生き方等について気付いたり、深められたりしたこと、道徳科の授業で見られた姿勢や意欲等を継続的かつ丁寧に見取ることが大切。

④ 事例の蓄積と共有

- ・各教師の評価結果を事例として蓄積し学校全体で共有を図る。
- ・学校全体で組織的・計画的に行うことが大切。

校長や教頭等の授業参加、他の教師と協力的に行う授業等も評価を組織的に進めるための方法として効果的。

評価事例

■小学校：低学年

評価事例

毎時間の学習では、他の児童の思いや考えにしっかりと耳を傾けながら、これまでの自分の生活を振り返り、学習のめあてについて考えを深めていました。特に「ハムスターの赤ちゃん」の学習では、教材の中のハムスターと家で飼っている鳥の様子を重ねながら、命を大切にしたいという思いを強く持つことができました。

毎時間の学習において、教材の登場人物に共感し、自分の経験と重ねながら、学習のめあてについて考えを深めている様子が見られました。特に「おもちゃのかいぎ」の学習では、大切に扱われていないおもちゃの気持ちに共感し、自分のものを大切に使いしていきたいという思いを持つことができました。

学習の様子やワークシートの振り返りなどから、教材の主人公に自分の思いを重ねながら、新しい見方や考え方に気付く姿が見られました。特に「つくえの中」の学習では、整理整頓すると、気持ちがよいだけでなく、次に使うときに物が見つかりやすくなることや物が無くならないことに気付くことができました。

毎時間の学習では、ペアやグループでの交流を通して、自分の思いや考えを意欲的に発言する姿が見られました。特に「がんばれ、ゆうきさん」の学習では、自分の立場と相手の立場の両方から考えることによって、仲間同士互いに理解し助け合うことの大切さに気付くことができました。

教材の登場人物の思いや行動を自分のこととして捉え、日常の様々な体験と重ねて、自分の思いや考えを深める姿が見られました。特に「おじさんの手紙」の学習では、みんなが使う場所ではルールを守って行動することの大切さに気付くだけでなく、これからは周りに迷惑をかけないでおこうと述べていて、感心させられました。

毎時間の学習において、自分が感じたことを素直に発言したり、他の児童の意見に共感したりしながら、考えを深めることができました。特に「きつねとぶどう」の学習では、今までの経験をもとに、両親に大切にされていることへの気付きや感謝の気持ちを感想に述べていて、心が温まりました。

積極的に自分の意見を発言するとともに、他の児童の意見をしっかりと聞く姿が見られました。特に「どうすればいいか」の学習では、登場人物の行動について、自分ならどうするか、どのような気持ちになるかを自分の経験と重ねて考え、他の児童の意見を取り入れつつ発言することで、学習の雰囲気を高めていました。

教材の内容をよく理解し、登場人物の心の動きをこれまでの自分と重ね合わせながら学習に向き合う姿が見られました。特に「とうばん どうしようかな」の学習では、学校生活を振り返り、やらなければならないことが身近にあることに気付くだけでなく、それらをしっかりと行おうとする思いをもつことができました。

教材のテーマをしっかりと捉え、主人公の気持ちを自分に置き換えながら深く考えることができました。特に「ゆっきとやっち」の学習では、自分の生活と重ねて、友人と一緒に、困難を乗り越えたり、色々なことに意欲をもって取り組めたりすることに気付き、友人の大切さを改めて感じていました。

教材の主人公の思いを自分のこととして捉え、普段の生活を通して、学習のめあてについて深く考えることができました。特に「あさのうた」の学習では、主人公が誰に対しても明るくあいさつしている姿から、あいさつが相手の気持ちをよくしたり、人の心を温かくしたりすることに気付き、進んであいさつをしようとする意欲を高めていました。

「日頃、お世話になっている人との関わりを考える」学習では、自分自身を振り返り、真剣に友人のことを考えてきたのか、自問自答する姿が見られました。さらにペアやグループでの学習を通して、友人の思いと自分の思いを重ねて考えることで、これから自分が大切にしたいものを見つけることができました。

■ 小学校：中学年

評価事例

教材の登場人物の心の葛藤に共感し、自分のこととして捉えることで、学習のめあてについての考えを深めることができました。特に「けんか」の学習では、友人と仲よくするために大切にしなければならないことや、集団の中ではどのように行動すべきかなど、新たな気づきをこれからの自分の生活に生かそうとする意欲を高めていました。

役割演技等を通して、自分の思いや考えを積極的に発言することができました。特に「生きたれいぎ」の学習では、女王がお客さんにはずかしい思いをさせないように振る舞ったことに感動し、これからは自分もそのように行動したいと感想文に述べていて、相手を思いやることの大切さについて深く考えていました。

授業を聞く姿勢、発言や感想文から毎回の授業で学習のめあてをよく考えていることがわかりました。特に「これでいいんだ」の学習では、これまでの自分の経験を思い出しながら、正しいと思ったことを行う勇気の大切さに気づき、自分もそのような勇気をもって行動していきたいという思いをもつことができました。

教材のテーマを広い視野で捉え、学習の前後の自分自身の思いや考えの違いに気づき、具体的に考えている姿が多く見られました。特に「メルヘンを二人の手で」の学習では、主人公の兄弟の思いに共感し、これまでの生活を振り返りながら、昔から伝わるものをこれからも大切にしていきたいという意欲を高めていました。

「自分のことについて考える」学習では、これまでの体験を基に自分の生活を見つめ直そうとする姿が印象的でした。教材の登場人物の心の葛藤を、これまでの自分の体験と重ねて考えることで、相手を意識しながら、あいさつすることの大切さについての理解を深め、実践していこうとする意欲を高めていました。

友人との交流や学習の振り返りを通して、自分の思いや考えをもつことができました。特に「あいさつをすると」の学習では、周りの人に自分からあいさつすることで、もっと親しくなれることに気づき、「これからは近所の人にもあいさつしていきたい」と感想に述べていて、感心させられました。

主人公の心の動きを感性豊かな言葉で表現し、授業の雰囲気を高めてくれました。特に「仲間がいるから」の学習では、協力することだけでなく、目に見えない支えの大切さについて発言し、これからも友人と互いに理解し励ましあい、代表委員としてクラスのみなを支えていこうとする高い意欲に感心させられました。

教材の主人公の思いや行動に対して、「自分だったらどうするだろう」と自分なりに考えを深めていました。特に「ドッジボール」の学習では、「簡単に手を貸したり、友人の言うことを全て受け入れたりすることが本当の友情ではない」と発表するなど、互いに高め合い成長できる関係をつくっていこうとする意欲がみられました。

発言は控えめでしたが、授業の姿や感想文から、回を追うごとに主人公に共感したり、自分なりの考えを深めていることがわかりました。特に「この水着で」の学習では、登場人物の水着への思いを、自分のこととして捉えながら考え、これからは自分の物を大切にしていきたいという気持ちを高めていました。

どの教材においても常に自分の立場に置き換えて考え、色々な見方や考え方があることを具体的にイメージして理解していました。特に「お母さんのせいきゅう書」の学習では、自分を振り返り、「自分のできることを家でもがんばりたい」とこれからの自分の生活に生かしていこうとする意欲を高めていました。

グループ学習等で、発言が苦手な他の児童によく語りかけたり、自分の考えを積極的に発言したりして、授業の雰囲気を高めてくれました。特に「正直50円分」の学習では、「自分だったら」という視点で考え、感性豊かな言葉で表現し、周りの児童の共感や新たな気づきを引き出すなどして、感心させられました。

■小学校：高学年

評価事例

教材の主人公の思いや考えを自分の体験と重ねて、実感として捉えようとしていました。特に「見えた答案」の学習では、主人公が自分の行動を後悔する場面を自分のこととして捉え、「弱い心に負けずに強い心で自分自身に勝てる人が誠実である」と発言するなど、誠実であることの大切さに気付くことができました。

教材のテーマを広い視野で捉え、具体的に考える中でたくさんの新しいことに気付くことができました。特に「車いすの少女」の学習では、「話の中のお母さんのように、行動に出さない親切もあるんだな」と手助けすることだけでなく、相手を見守ることの大切さに気づき、様々な親切の形について考えを深めることができました。

日々の学習での友人との交流を通して、常に「自分なら」の視点で物事を捉えていました。特に「サッカーワールドカップブラジル大会 もう一つの日本代表」の学習では、普段の係活動と重ねて、自分の考えや、やってみたいことを見つめ直すことで、「進んで働くこと」の大切さを深く考えることができました。

「みんなと気持ちよくくらすことを考える」学習では、普段の児童会活動や委員会活動の経験から、自分ならどうするかという視点から考えていました。感想文にも自分の役割をしっかり行うことや他の児童と一緒に取り組むことの大切さを述べていて、今後の学校生活にも生かしていけるように思います。

毎回の授業で、素朴で素直な感情を表現するので、周りの児童が共感する姿がよく見られました。特に「ぼくらの野球チーム」の学習では、主人公を休ませた周りの人たちの主人公を大切にしたい思いに気づき、命を大切にすること、相手を思いやることについて、積極的に発言することで、クラスの雰囲気を高めてくれました。

教材の登場人物と自分を重ねながら、どのように判断・行動することがよいか、根拠を持って積極的に議論していました。特に「スマートフォンの向こうに」の学習では、SNSには利便性があるが、誤解が生じる危険性もあることに気づき、これからは友人と顔を合わせた交流を大切にしていこうとする意欲を高めていました。

授業では、これからの自分の生き方につなげて考えている姿が多く見られました。特に「僕らは小さなかにはかせ」の学習の感想文では、自分の経験を振り返りながら、「今まではすぐにあきらめていたけれど、今後はあきらめずにがんばりたい」と今後の学校生活に向けて、がんばろうとする意欲が書かれていて感心させられました。

毎回の授業で、素直に教材に聞き入り、他の児童とは違う視点に着目することが多くありました。特に「ぼくの大字駅伝」の学習では、がんばり通すことのよさと難しさについて考え、「もう一人の自分に信じてもらえる存在になって自信をつけたい」と述べるなど、今後の自分の生活につなげていこうとする意欲を高めていました。

他の児童の意見をよく聞き、理解しようとする姿勢が見られました。特に「手品師」の学習では、主人公の葛藤する心を考え、「小さな約束だからといって、それを軽く扱うような人にはなりたくない」と発表するなど、誠実に生きることを自問自答しながら、これからの自分の生き方についての考えを広げていくことができました。

「命や自然のすばらしさ、生きる喜びを考える」学習では、主人公が残した言葉の意味を、これまでの自分の体験と重ね合わせながら、実感として捉えようとしていました。教材に対して感動で終わるのではなく、これからの自分の生き方について考える一つの手がかりにしていこうとする姿が見られました。

授業を聞く姿勢や発言などから、どの授業でも教材に共感しながら自分の考えを深めている様子がよくわかりました。特に「わたしは幸せ者」の学習では、自分のことばかりではなく、家族のことを考える大切さに気づき、家族の一員として、今の自分にできることを見つけようとする感想に述べていて、感動させられました。

授業での発言や感想文に、物事に捉われすぎず自然に受け止められている姿がよく表れていました。特に「どろだらけのスパイク」の学習では、マナーの大切さについて考え、みんながマナーを守り、気持ちよく過ごせるような環境を作っていくため、これまでの自分自身の考えや行動を見つめ直していることがわかりました。

評価事例

日常の様々な体験を通して、教材の主人公の考えを自分の生活に置き換え、自分のこととして捉えようとする姿が見られました。特に「足跡」の学習では、「結果ばかりを考えず、結果よりその前の努力を惜しまないようにしたい」と発表するなど、どのような結果になろうとも、過程を大切に挑戦しようとする意欲を高めていました。

「自分を見つめる」学習では、教材の登場人物を自分に置き換えて考え、理解しようとする姿勢が見られました。困難や失敗を乗り越え、目標に向けて努力することの大切さに気付いたり、今の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直そうとしたりする意欲を感想に書くなど、頼もしさを感じさせられました。

自分を振り返り、偏見や先入観にとらわれず正しいことを見つめようとする姿勢が見られました。特に「シツカブッタ」の学習の感想には、「全部を正しく見ているわけじゃないから、勝手に思い込んで差別が生まれると思う。人の嫌がることをしていないか考えて行動したい」と相手を考える気持ちが表れていました。

日常の体験や自分の生活と重ねながら、教材のテーマについて自分なりに考えを深めていました。特に「continue」の学習では、他の生徒の意見を聞く中で、将来の夢や目標を実現するためにあきらめず努力していこうとする意欲を高めていました。夢の実現に向けて、努力する気持ちをこれからも大切にしてください。

発言は控えめでしたが、授業での聞く姿勢や感想から、教材に共感したり自分なりに考えを深めたりしていることがわかりました。特に「真の思いやり」の学習では、「日常生活で失敗して困っている人がいれば励ましてあげようと思いました」と感想に書くなど、他者への思いやりを感じさせるもので、心が温まりました。

「人との関わりを考える」学習では、他の生徒の意見も取り入れながら、自分の考えをしっかり発言していました。時と場に応じた適切な言動に加え、相手に対して尊敬や感謝の気持ちをもつことの大切さを考える中で、自分自身の態度や行動を振り返り、これからの学校生活で実践していこうとする意欲を高めていました。

授業を通して改めて気付いたことをこれからの自分の生き方に生かそうとする姿が見られました。特に「挨拶できなきゃ留年」の学習では、「知らない人にあまりできないときがあるから、これからは誰にでも挨拶をしていきたいです」と振り返るなど、自らの行動を改善していこうとする高い意欲が見られました。

自分の考えや意見を伝えるとともに、自分と異なる意見も尊重しようとする姿が印象的でした。特に「言葉の向こうに」の学習では、「ネットでは相手の顔はわからないが、相手の気持ちや思いを想像して、傷つけることを言わないことが大切」と述べ、ネット社会のコミュニケーションのあり方についての考えを深めていました。

「社会の一員として自分を捉える」学習では、他の生徒の発言に聞き入り、理解しようとする姿が見られました。特に、自分にも他人にもよりよい社会にするため、互いに助け合い励まし合うことについて書いた感想文には、他の生徒の発言に共感しながら自分の考えを深めている様子が伝わり、成長を感じさせられました。

授業で学んだ道徳的価値について、自分なりに考え、生活の中で実現していこうとする意欲が見られました。特に「明かりの下の燭台」の学習では、知らないところで誰かに支えられていることに気づき、「様々な人やものに感謝し、自分自身も誰かを支えていけたら」という思いを強くしていました。

どの教材でも自分に置き換えて考え、色々なものの見方や考え方があることを自分なりにイメージしていました。特に「そうじの神様が教えてくれたこと」の学習では、「働くことの大切さが分かった。何事も一生懸命取り組み、仕事をしている人に感謝したい」と、感謝の心を持つことの大切さに気付いていました。

他の生徒の発言を聞いている態度から、授業の主題を真剣に考えていることがわかりました。特に「帝釈天の左足」の学習では、見えないところまで彫り込んだところに作り手の作品への気持ちや誇りが込められていることに気付きました。他の生徒の思いと自分の価値観を見つめたからこそ、大切にしたいものが見えてきたのだと思います。

他の生徒の意見を理解しようとしてよく聞き、素朴で素直な発言をするので、周りの生徒から共感されることが多くありました。特に「一枚の葉」の学習では、「人間も自然の一部で、自然には人間の及ばないところがある」と発表するなど、筆者の自然に対する考えを自分なりに理解し、クラスの雰囲気を高めてくれました。

話し合い活動で、積極的に自分の思いを発言するなど、意欲的に取り組む姿勢が見られました。また、発言が苦手な生徒によく語りかけるなど、さりげない心遣いに感心させられました。特に「ヒキガエルとロバ」の学習では、他の生徒の意見を取り入れつつ、命の大切さについて深く考えていることがわかりました。

「生命や自然、崇高なものとの関わりを考える」学習では、人間には弱さも醜さもあるが、それに向き合う強さがあることに気づき、自己の弱さを克服したいという思いを感想に述べていました。授業を通して、自分自身を見つめ直すことで見えてきたことや他の生徒との交流で深めた考えを大切にしてください。

回を追う毎に、単なる感想だけでなく、新たに気付いたことを感性豊かに発言し、クラスの雰囲気を高めてくれました。特に先人の生き方を通して考える授業の感想では、「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心がある」と述べていて、着眼点の鋭さに感心させられました。

児童生徒アンケートシート様式例

小学校

今日の学習をふりかえって

	よくできた	できた	もう少し
① ○○（ねらいとする道徳的価値）について考えることができましたか。	◎	○	△
② これまでの自分をふりかえって考えることができましたか。	◎	○	△
③ 友達の思いや考えを聞いて考えることができましたか。	◎	○	△
④ これからの自分に生かしていきたいことを考えることができましたか。	◎	○	△

中学校

今日の道徳を振り返って

	たいへん	←	ふつう	→	まったく
① ○○（ねらいとする道徳的価値）について考えを深めることができたか	5	4	3	2	1
② 自己を振り返り、考えを深めることができたか	5	4	3	2	1
③ 他者の思いや考えを聞いて考えを深めることができたか	5	4	3	2	1
④ これからの自己の生き方について考えを深めることができたか	5	4	3	2	1

上記以外に、「共感・感動したか」や「教材はよかったか」などの設問も考えられます。

※設問の表現は、ねらいや児童生徒の実態、教材によって変更してください。

※本アンケート様式例は、授業改善のための資料であり、児童生徒の評価を行うものではありません。

発行／京都市教育委員会学校指導課、京都市総合教育センター

参考文献等／・小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年6月・7月）

・文部科学省「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」報告（平成28年7月）

・「学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成28年7月29日付け通知28文科初第604号）